

# 反転学習を利用したオンラインダンスレッスンの提案

Proposal for Online Dance Lessons Applying Flipped Classroom

清水 大地, 柴崎 加奈子, 土田 修平

Daichi SHIMIZU, Kanako SHIBASAKI, Shuhei TSUCHIDA

東京大学

The University of Tokyo

〈あらまし〉本研究では、反転学習を適用したオンラインダンスレッスンの枠組みを提案した。COVID-19 の流行によりダンス指導現場でも指導方法の見直しに迫られ、既存の Web 会議システムを用いたオンライン指導が広く行われた。一方で、大人数の動きの同時把握の困難さなど、多くの課題が確認されている。本研究では、大人数の生徒対象の円滑な指導を可能にするレッスン枠組みを反転学習に着目して提案した。ここでは、通常の対面レッスンにおいて並行して営まれる「表現の習得」と「表現の発展・演習」とをそれぞれオンデマンド式映像レッスンとリアルタイム式オンラインレッスンで実施している。実際に上記枠組みに基づきレッスンを実施した結果、参加者からは枠組みの価値を評価する感想が確認されている。

〈キーワード〉 ダンスレッスン, オンライン環境, 反転学習, 舞踊教育・学習

## 1. はじめに

本研究では、反転学習を適用したオンラインダンスレッスンの枠組みを提案した。COVID-19 の流行により指導方法の見直しを求められる教育現場は多い。義務教育に取り入れられたダンス指導現場でも同様の状況が見受けられる。以上の現場の多くでは、Web 会議システムを利用し、対面レッスンと同様の指導方法を適用することで指導を継続してきた。一方で、大人数の参加者の動きを同時に把握することの困難さや、本来 3 次元で表されるダンスを 2 次元上で立体的に把握する困難さ、個別の声がけ・指導を行うことの難しさなど、多くの課題が講師へのインタビューにより確認されている。以上を踏まえ、本研究では、大人数の生徒対象の円滑なオンライン指導を可能にするダンスレッスンの枠組みを提案する。

特に本研究では、枠組みの基盤として反転学習に着目した。反転学習とは、説明型講義など基本的な学習に学習者が授業前個別に取り組み、個別指導・プロジェクト学習といった知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に教師と関わりながら行う教育方法のことである (e.g., Bergmann & Sams, 2014; 大浦・池尻・伏木田・安斎・山内, 2018)。これまでの対面・オンラインダンスレッスンでは、「習得 (個別の動きの獲得)」と「発展・演習 (複数の動きによる振り付

けの習得・洗練、音楽に合わせる表現力の洗練)」とを織り交ぜ実施される場合が一般的であった。一方本提案では、反転学習の構造を適用し、上記の「習得」部分をオンデマンド式映像レッスンで、「発展・演習」部分をリアルタイム式オンラインレッスンで行うこととした (図 1)。以上の構造を適用することで、繰り返しによる動きの理解・細かな修正が必要とされる「習得」部分を、生徒が自分のペースで何度も学習可能な点、個人の特性や動きに合わせた表現力の育成・拡張といった「発展・演習」部分について個別指導・他参加者との共有といった発展的・探索的な活動に時間を割いて取り組むことが可能な点等が利点として挙げられよう。以上の「習得」—「発展・演習」に繰り返し取り組んでいくレッスンの枠組みにより、参加者の表現力育成に繋がる有効なレッスンが実施可能と考えた。

## 2. レッソンの詳細

以上を踏まえ、本研究では上記枠組みを反映したオンラインダンスレッスンを、豊かな指導経験を持つダンス講師 (第二著者) と共に企画・実施した。以下レッスンの概要を記す。なおダンスレッスンは、詳細に改善を加えつつ、2020 年 7 月 4 日、7 月 15 日、7 月 22 日の 3 回に渡って実施した。

従来：対面もしくはリアルタイムレッスンのみ



提案：反転学習式のオンラインダンスレッスン

複数参加者に対する基礎・発展の細やかな指導の達成



図1. 提案するオンラインダンスレッスンの枠組み

まず、オンデマンド式の映像レッスンを実施した。1回のレッスン時間は15分程度であった（映像の繰り返し視聴が可能であり、厳密な実施時間は参加者に依存する）。ここでは、基礎的なリズムの取り方やダンスステップ、それらを組み合わせた単純な振り付けを簡潔に説明・実演したレッスン映像を撮影し、参加者に配信した。講師は1つ1つの動き・ステップについて、複数の角度から撮影し、実演を交えつつ口頭による動きの細かな説明を行った。ここでは、参加者は講師の説明を聞き実演された動きを視聴しながら、示されたダンスステップを1つ1つ模倣し習得していった。なお、映像はYouTubeを利用しリアルタイム式レッスンの数日前に送付した。

次に、リアルタイム式のオンラインレッスンを実施した。1回のレッスン時間は45分程度であった。ここでは、オンデマンド式レッスンの最後に行った振り付けを全員で実施するとともに、講師がその質や表現性、改善点について個別にコメントを提示した。また参加者が理解出来なかった部分や疑問に思った部分を質問する時間、複数人のグループで振り付けを披露し感想を共有する時間、自身で踊ってみた印象・感想を共有・議論する時間を設定し、発展的な内容に関する講師—参加者間、参加者間の情報共有や交流が活発に生じる仕組みを組み込んだ。なお、リアルタイムレッスンはオンライン会議システム「Zoom」を利用して行った。

### 3. 参加者の感想

レッスン後の話し合いにおいて、参加者からは枠組みの価値を評価する感想が窺われた。特にオンデマンドレッスンにおいて上手いかない部分に何度も繰り返し取り組めたこと、リアルタイム

ムレッスンにおいて他の参加者のダンスを見てその感想や踊っている際の意識を共有出来たことに価値を感じていた参加者が見られた。

### 4. 今後の課題

企画・実施後の講師の所見や参加者の感想を考慮すると、今後は以下に着目した内容改善が必要と考えられる。まずオンデマンド式映像レッスンにおける個人の状況に合わせた指導方法の確立が挙げられよう。基礎ステップの習得度は、その種類・改善点ともに参加者により大きく異なっていた。この点について、現状ではリアルタイムレッスンでの個別指導以外の解決策が無く、その分発展に割く時間が短くなる様子が見られた。今後は、苦手なステップの細かい修正方法等を含めた映像も準備し、基礎を十分に習得可能にする内容改善が必要である。なお、現在我々は基礎ステップに関してAIによる自動スコアリングを行うシステムを開発しており上記の枠組みに組み込んでいる最中である（土田・柴崎・清水，2020）。

また、他にもリアルタイムレッスンにおける発展的な内容の構造化も課題であろう。この点に関して、現状では講師の豊かな指導経験に基づいた内容精査のみを行っている状況であり、明確な理論に基づく更なる効果的な内容への洗練は十分に出来ていない。今後はオンデマンドレッスンとリアルタイムレッスンとの相互作用も深く考慮した、表現力を育成するためのより効果的なレッスン構築を目指していく。

### 参考文献

- Bergmann, J., & Sams, A. (2014). Flipped learning: Gateway to student engagement. International Society for Technology in Education.
- 大浦弘樹, 池尻良平, 伏木田稚子, 安斎勇樹, & 山内祐平. (2018). 歴史をテーマにした MOOC における反転学習モデルの評価. 日本教育工学会論文誌, 41085.
- 土田修平, 清水大地, 柴崎加奈子, 寺田 努, & 塚本昌彦. (2020). オンラインダンスレッスンにおける講師-生徒サポート AI システムの提案. ユビキタス・ウェアラブルワークショップ 2020, p. 70.